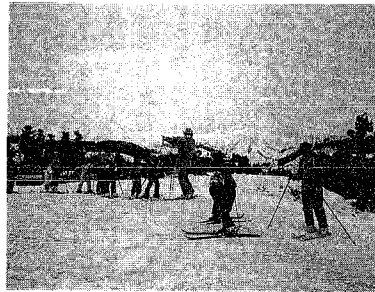


村民スキー教室

スキーが楽しい!!

二月十七日(日)、公民館主催の村民スキー教室が守門村の須原スキー場で行われました。正しいスキー技術を身につけてもらうために、初心者を対象に実施しました。参加者五十人を四班に編成し、地元スキー学校のインストラクターから指導してもらい、あいにくの強風が吹く中、講習が行われました。

「こんなに滑れるようになった」と元氣な子供たち、スキーの楽しさが分かったのでしょう。お疲れさまでした。



川井さん

囲碁の部で3連覇達成

―春季囲碁将棋大会―

村民春季囲碁将棋大会が、二月三日に行われ、川井助作さんが囲碁の部で、昨年の春夏、そして今回と、見事三連覇を達成しました。

当日、会場の就業センターには、早朝から盤上の名手ら二十三人が参加、それぞれ熱戦の末、左記の人らが入賞しました。

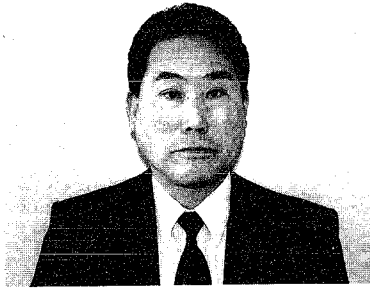
◎将棋A級の部 (敬称略)	優勝	小林 昭二
	準優勝	青木 茂
	三位	小出 昭吾
敢闘賞		藤村 義一
◎将棋B級の部	優勝	大関 仁作
	準優勝	田辺 竹司
	三位	児玉 春雄
敢闘賞		木村 誠
◎囲碁の部	優勝	川井 助作
	準優勝	若狭基三郎
	三位	後藤 慎治
敢闘賞		広野 石松

地域交通安全活動推進委員に

五十嵐 賢治さん (月瀧)

地域の交通安全活動を推進するため、地域ぐるみで交通問題に対して取り組んでいく重要性から、この運動のリーダーとして活躍していただくボランティア(地域交通安全活動推進委員)に、五十嵐賢治さん(月瀧)が県の公安委員会から委嘱されました。

なお、白根署管内では五人の委員が委嘱され、活動されています。



“おんねんからの心がけで”

火災は防げる。

春の火災予防運動

(4月1日〜7日)

春の火災予防運動が四月一日から七日まで実施されます。この期間、さまざまな行事が行われます。日ごろ忘れがちな火災の恐ろしさを、改めて思い起こしましょう。この機会に家庭で火災についての話し合いをしてみてもいいかがでしょうか。



年金コーナー

学生も国民年金に加入しなくてはなりません

平成三年四月一日から、二十歳以上の学生について住所地の市町村の国民年金に加入しなければならなくなります。(これは、在学中に障害者になった人に、障害基礎年金が受給できるようにするためです)

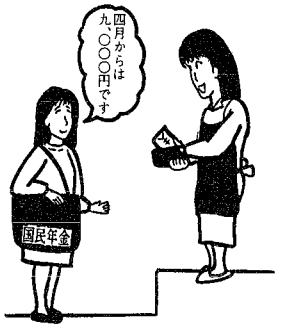
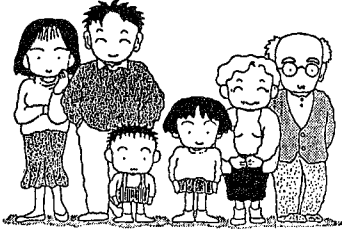
保険料の納付、申請免除の手続き(資格取得届け書など)が必要です。

4月から国民年金保険料は、9千円になります

また、国民年金の定額保険料は、四月から一月につき九千円に改められます。これは、高齢や障害などで働けなくなったときや、一家の働き手を失ったときなどに、年金を支給して生活を保障することを年金が目的としているため、年金の価値を社会情勢に応じた水準に保つていかなければならないために、年金額の引き上げが必要となってくるのです。



4月から学生の方も国民年金に加入が義務づけられます



4月から地域型国民年金基金が発足します

国民年金は、基礎年金(平成二年四月現在、六十八万一千三百円)が支給されていますが、ゆとりある老後を過ごすことができるように、基礎年金の上乗せ給付を行う新しい公的な年金制度が県単位で設立されます。この制度に加入できる人は、国民年金の第一号被保険者(二十歳から六十歳になるまでの間、自営業などの人たちが対象になります)です。自分の将来設計に合わせて年金を組み立てることができます。

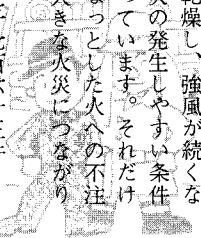
※国民年金に関することは、役場住民課(年金係)にお気軽にお問い合わせください。

「国民年金は、世代と世代の助け合い」の制度です。

冬から春にかけてが、一年を通じて火災が最も多いのを占めています。

この時期は空気が乾燥し、強風が続くなど、火災の発生しやすい条件がそろっています。それだけに、ちょっとした火への不注意が、大きな火災につながります。

五万五千七百六十三件――平成元年一年間に、これだけ火災が発生しました。死者は千七百四十七人で、一日約五人の割合で亡くなっているのです。火災の種類で、最も多いのは、建物火災です。一日に約九十六件、十五分に一件の割合で発生しています。こうした火災の多くは、日ごろの心がけでかなり防げることができます。



知っておこう 7つのポイント

●家庭から火事を出さないようにするには、どのような点に気をつければよいでしょうか。火の用心の七つのポイントです。

①寝たばこやたばこの投げ捨てをしない

- ②子供には、マツチやライターで遊ばせない
マツチやライターは、子供の目に触れない所に置くようにしましょう。火の恐ろしさを、子供に教えておくことが大切です。
- ③風の強いときは、たき火をしない
たき火をするときは水を用意し、火が消えるまでそばを離れてはいけません。たき火が終わったら、水をかけて消しましょう。そして、火の跡をいま一度確認することが大切です。
- ④天ぷらを揚げるときは、その場を離れない
ころろ火災の多くは、天ぷら油によるものです。もし、天ぷらを揚げているときにその場を離れるときは、必ず火を消してからにしましょう。また、家庭用消火器を台所に
- ⑤家のまわりに、燃えやすいものを置かない
ぜび一本備えてください。放火や放火の疑いによる火災が、年々増えています。放火されるのは深夜、人目につかない時間帯がほとんどです。家のまわりに燃えやすいものを置かないようにするなど、放火されない、環境づくりをしましょう。
- ⑥ふろの空だきをしない
空だきの原因は、水が入っていると、点火したという、うっかりミスが多いのです。点火するときに水がきちんと入っていることを、必ず確認する習慣をつけましょう。
- ⑦ストーブには、燃えやすいものを近づけない
これらの七つのポイントを確認し、家庭で実践するようにして火災に十分な注意をはらって楽しい生活を過してください。